

# U.S. Indicators

発表日:2018年10月2日(火)

## 米国 18年9月 ISM 製造業景気指数

～各国の米国輸出への関税賦課でも輸出受注は高い水準維持～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

### ISM製造業景気指数の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
17/09	60.2	64.4	61.9	58.7	52.6	63.4	56.9	71.5	56.2	53.8
17/10	58.5	63.5	61.0	59.8	48.1	60.1	53.9	68.1	55.1	54.3
17/11	58.2	63.9	64.3	59.2	47.1	56.6	54.3	64.8	56.3	54.3
17/12	59.3	67.4	65.2	58.1	48.5	57.2	54.9	68.3	57.6	56.5
18/01	59.1	65.4	64.5	54.2	52.3	59.1	56.2	72.7	59.8	58.4
18/02	60.8	64.2	62.0	59.7	56.7	61.1	59.8	74.2	62.8	60.5
18/03	59.3	61.9	61.0	57.3	55.5	60.6	59.8	78.1	58.7	59.7
18/04	57.3	61.2	57.2	54.2	52.9	61.1	62.0	79.3	57.7	57.8
18/05	58.7	63.7	61.5	56.3	50.2	62.0	63.5	79.5	55.6	54.1
18/06	60.2	63.5	62.3	56.0	50.8	68.2	60.1	76.8	56.3	59.0
18/07	58.1	60.2	58.5	56.5	53.3	62.1	54.7	73.2	55.3	54.7
18/08	61.3	65.1	63.3	58.5	55.4	64.5	57.5	72.1	55.2	53.9
18/09	59.8	61.8	63.9	58.8	53.3	61.1	55.7	66.9	56.0	54.5

(出所) ISM: the Institute for Supply Management

18年9月のISM製造業景気指数(季節調整値)は、59.8と前月比1.5%ポイント低下し市場予想コンセンサスの60.0(筆者予想58.1)を小幅下回った。総合指数は高い水準を維持しており、製造業部門の好調持続を示している。ハリケーン“フローレンス”の襲来、米国の鉄鋼・アルミニウムへの関税賦課、それに伴う各国の対抗措置、米中貿易戦争、人手不足などの悪影響を受けながらも、米国内需要の堅調さ、世界需要の拡大等を背景に、米国製造業部門の活動は活発な状況が続いている。

総合指数を構成する項目では、生産、雇用が上昇した一方、新規受注、在庫、入荷遅延が低下した。構成項目別の総合指数への寄与度をみると、生産(前月比+0.12%p)、雇用(前月比+0.06%p)が押し上げ寄与となった一方、入荷遅延(前月比▲0.68%p)、新規受注(前月比▲0.66%p)、在庫(前月比▲0.42%p)が押し下げ寄与となった。

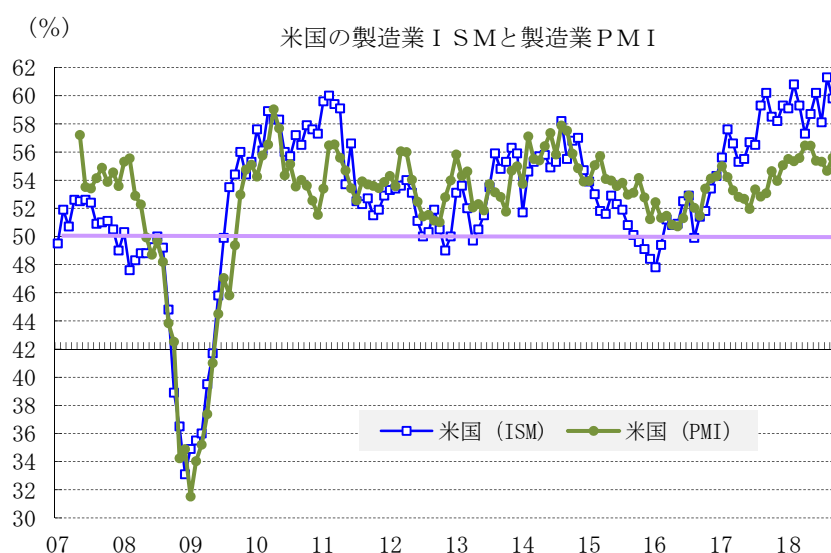
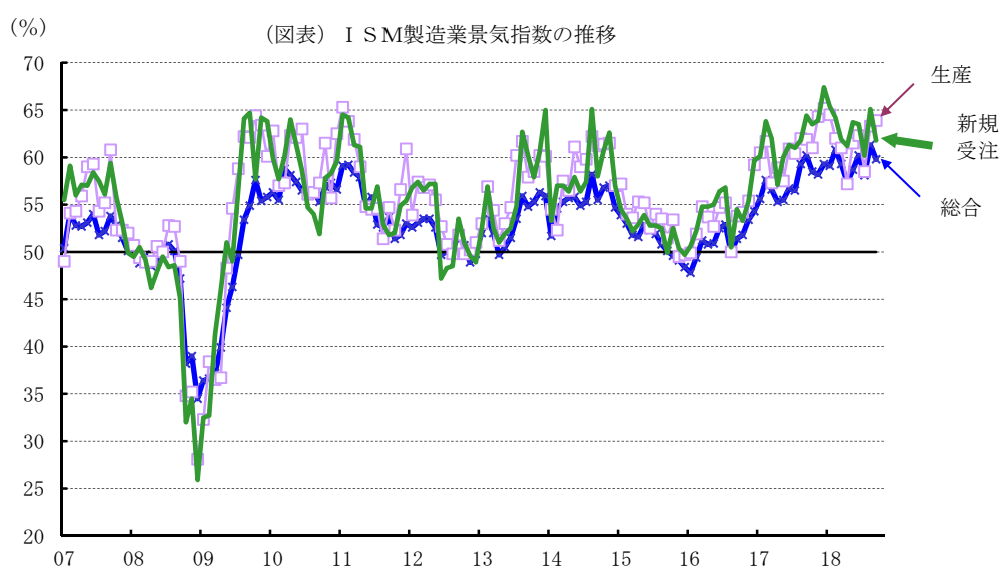
人手不足等で入荷遅延が高水準で推移しているものの、重要項目である新規受注や生産が内外需の堅調さを映じて高い水準で推移していることから、製造業部門は当面良好な状態を維持すると判断される。一方、インフレ面では、ドル高によるインフレ抑制効果がでてきているものの、新規受注や生産の高い水準での拡大傾向、入荷遅延や輸入制限導入などを受けた商品価格の上昇によって、仕入価格が高い水準にとどまっており、川上でのインフレ圧力は強いままである。

総合(全18業種、下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す)で拡大した業種は、繊維、その他製造業、プラスチック・ゴム、コンピューター・電子機器、食品・飲料・タバコ、一般機械、アパレル、紙製品、電気設備・部品、化学製品、石油・石炭、輸送機器、家具・同関連、加工金属、非鉄の15業種(前月16業種)と、多くの業種で拡大しており、製造業は広がりを持った拡大が続いている。縮小した業種は、一次金属の1業種(前月2業種)にとどまった。印刷・関連サポート活動、木材製品



は変わらず。

今後、貿易戦争の本格化、人手不足の一段の強まり等によるコストの上昇、EUや日本との通商交渉の不透明感、中国経済の構造変化に伴う中期的な成長鈍化など、需要の伸びを抑制する要因が残存すると予想される。このようなもとで、雇用・所得・保有資産残高の増加等による個人消費の拡大が見込まれる。また、コスト削減などのための効率化投資のほか、米国での生産能力拡大投資などを背景に、設備投資が堅調な拡大ペースを保つと予想されることから、米景気は好調さを維持するとみられる。また、海外需要は拡大モメンタムのピークアウトも先進国での緩やかな金融環境や改善の続く内需に支えられ拡大基調を維持する公算が大きい。以上より、ISM製造業景気指数は、当面現状程度の高い水準で推移すると予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。